

第6章 參考資料

1 . 保存整備基本計画検討委員会 概要

旧美歎水源地水道施設保存整備基本計画検討委員会 概要		
委員	鳥取大学教授	藤井 正 (委員長)
	名古屋工業大学大学院教授	麓 和善
	鳥取大学准教授	岸本 覚
	美歎地区自治会代表者	澤田 勉
事務局	鳥取市教育委員会文化財課	中村英夫・平川誠・佐々木孝文 松原雅彦・中山和之
ワザバ	鳥取県教育委員会文化財課	松本絵理
	鳥取市水道局浄水課	田中真一郎・堀尾憲一
	都市・景観設計	奥村信一・盧永春・杉山智子

2 . これまでの水源地に関する計画の概要

美歎水源地景観保全・継承計画	
策定年月日	平成14年3月
策定主体	美歎自治会
策定経緯	平成13年に鳥取県による「21世紀に残したいふるさとの景観」100選に選定されたのを契機に、美歎自治会により、美歎水源地一帯の景観資源の保全活用構想が策定された。
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美歎水源地利用検討委員会(平成13~14年 全12回) ・ 先進地視察(布引貯水池・ハーブ園等(地区民52名)) ・ 景観保全に関する研修会(景観アドバイザー 芦沢喜武氏)
内容	<p>上流部を含む計画対象区域を、3つのゾーンに区分し、計画を行っている。</p> <p>1) エントランスゾーン(駐車場・トイレ・親水性護岸・東屋・案内板)</p> <p>2) 水道の歴史と花のゾーン (駐車場・人道橋の架け替え・歩道整備・東屋・藤棚・植栽整備・水道資料館・喫茶店・洋風ガーデン・整形池)</p> <p>3) スポーツ・キャンプゾーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 堰堤下広場(宿泊棟・管理棟・緩衝桜植栽・展望所) ・ 上流部(ダム湖周回道路整備・駐車場・簡易舗装・テニスコート・グランドゴルフ・休憩所・入浴施設・溪流つりゾーン)

美歎水源地文化財保存検討計画	
策定年月日	平成17年12月
策定主体	美歎水源地文化財保存検討委員会
策定経緯	旧美歎水源地に残っている文化財的価値のある建造物を文化財指定し、それらの文化財を修復保存するとともに活用方法を検討する。 美歎地区、文化庁との協議、現地視察、検討委員会（全4回）開催
参加者	<p>【委員会】 （鳥取市）水道事業管理者・国府総合支所長・鳥取市文化課長・教育長・都市整備部長 （鳥取県）鳥取地方県土整備局河川砂防課長</p> <p>【調整部会】 （鳥取市）教育委員会文化財課・都市整備部都市計画課・都市整備部公園街路課・国府町総合支所産業建設課・鳥取市水道局浄水課 （鳥取県）文化課文化財係・鳥取地方県土整備局河川砂防課</p> <p>【事務局】鳥取市水道局浄水課</p>
検討事項	<p>(ア) 文化財指定の検討（候補建造物・文化財価値・指定範囲等）</p> <p>(イ) 文化財活用方針と周辺整備検討（整備方針・活用・管理・市民参画・指定後の効果・土地活用構想等）</p> <p>(ウ) 財源計画検討（財源確保・整備維持管理費・概算事業費）</p> <p>(エ) 今後のスケジュール</p>
方針・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建造物周辺も含めた、地番指定にすべき。 ・ 文化財指定においては、周辺整備や活用計画の構想が必要。 ・ 文化財保存を第一目的とし、近代水道のしくみ、土木技術等、学習の場となる整備を行う。 ・ 文化財的価値と歴史的意義に対する県民意識を高め、市民、地域の誇りとなるようにする。 ・ 整備は段階的アプローチで検討すべき。 ・ 周辺整備は、建造物の保存修復整備後、中長期的に整備し、市民の憩いの場となるようにする。 ・ ハード面だけでなく、ソフト面の活用を検討すべき。 ・ 整備・活用・管理等について、地元住民・市民との協働が重要 ・ 文化財保存区域（国庫補助対象）・・・「歴史と学習ゾーン」 ・ 周辺整備区域（国庫補助対象外） 「エントランスゾーン」・「花と憩いのゾーン」・「ふれあいゾーン」 「見晴らしゾーン」・「利便施設ゾーン」 ・ 総合案内、モニュメント・広場・利便施設・駐車場・遊歩道等設置

財源計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財修復保存については、国庫補助を基本とする。 ・ 修復工事着手までに建造物破損防止措置を講じる必要あり。 ・ 周辺整備（文化財国庫補助対象外）については、財源確保方法を検討。 ・ 文化財保存整備・周辺整備の概算事業費・概算維持管理費など財源検討。 ・ 近代化遺産の鉄筋コンクリート造建造物の文化財補修方法が確立されておらず、費用の変動の可能性がある。 ・ 文化財保存整備と周辺整備の同時進行など工程の検討が必要。
管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財建造物管理は、堰堤は県土整備局、その他建造物は市教育委員会。 ・ 周辺整備区域の管理は、市公園街路課が担当。 ・ 公園化には、文化庁との協議が必要。 ・ ボランティア、地元住民、市民による清掃、除草、植栽管理の検討。
運営・事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財修復過程の公開。 ・ 文化財を活かした歴史と学習の事業（市民ボランティアガイド等） ・ 地域性を再発見する事業（周辺の景勝地、史跡などとの連携） ・ 市民参画による地域の誇りを持てる事業（地域芸能のイベント等） ・ 周辺観光ルートとの連携
今後の工程	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財フォーラム、パブリックコメントなど意見募集の実施 ・ 文化財保存専門委員会の設置 ・ 先進地の視察 等

3. 旧美歎水源地水道施設現地見学会アンケート結果

重要文化財指定を受けて、鳥取市教育委員会が主体となり、鳥取市水道局と協同で、平成19年9月2日に現地で説明会を実施した。午前・午後の2回実施し、参加者は約200名であった。参考として、そのアンケート結果を掲載する。

日時：平成19年9月2日

アンケート回答者107人

設問1	性別を教えてください。
	A. 男(49人:45.8%) B. 女(57人:53.3%) 回答なし1人
設問2	どちらからお出でになりましたか。
	A. 鳥取地域(旧鳥取市)(64人:59.8%) B. 国府町(38人:35.5%) C. A・B以外の鳥取市内(3人:2.8%) D. 鳥取市外(2人:1.9%)
設問3	この現地説明会の実施をどのようにしてお知りになりましたか。」
	A. 新聞などマスコミ(14人:12.8%) B. 友人・知人から(9人:8.3%) C. 市の広報紙(67人:61.5%) D. その他(19人:17.4%)
設問4	以前に文化財や埋蔵文化財の現地説明会に参加されたことはありますか。
	A. ある(51人:48.1%) B. ない(55人:51.9%)
設問5	今日の現地説明会はいかがでしたか。」
	A. よかった(87人:85.3%) B. 普通(14人:13.7%) C. よくなかった(1人:1.0%) 回答なし 5人
設問6	よかった点やよくなかった点はどのようなところでしょうか。
	以下の表を参照
設問7	今後、今日のような発掘調査の現地説明会があったら、参加したいと思われませんか。
	A. 是非参加したい(51人:49.0%) B. できれば参加したい(53人:51.0%) C. 参加したくない(0人) 回答なし 2人

	意見	基本計画への反映
美歎水源地について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財に指定されて誇りに思う。 ・ 飲んでいた水がここからきたと思うと感無量。大切にしてほしい。 ・ 鳥取県（市）の昔の人は文化的な考え方の持ち主がいたのだなと感心した。 ・ 昔の人の、お金より気持ちの大きさ、この大きなスケールが気持ちが良い。 ・ 近くにこのような優れた文化財があり勉強になった。とても誇らしく思う。めずらしくとても良かった。 ・ 鳥取内には時代を感じさせる建物が少ないように思っていたが、時代を感じさせ、他県にはあまり見ない様式でよかった。在住の方に聞くと、以前は遠足に行った事があるといっていた。この建物を大勢の方に見てほしい。 ・ 昔の人の苦勞が偲ばれた。古い歴史と苦勞がよくわかった。 ・ 市民の命に関する水ということで大切にされていたのがわかった。 ・ 国府庁、近くにいながら詳しいことを知らなかった。 ・ 自分の住んでいる文化遺産もっと知りたい。 ・ 水の大切さが良くわかった。 	<p>45 頁</p> <p>1) 基本理念</p> <p>2) 基本方針</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の頃の遠足が遊びで来ていた。水のある濾過池等を思い出し整備されるのを楽しみにしている。 ・ 少年の頃の思い出がよみがえった。とても懐かしかった。 ・ 美歎水源地は子供期に来た。久し振りで又友達にも紹介出来る。 ・ 地元の者だが、小学校の遠足のコースになっていたように以前の姿になったらいいなと思う。 	
保存・整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下部分の保全もしてほしい。 ・ 資料館なども建ててほしい。地元としても協力はおしませてください。 ・ 文化財は復元できないか。 ・ 今回の現場がある程度修復されたら、もう一度来たい。 ・ 鳥取市の財産。維持管理に相当の経費は必要になると思うが、重要文化財として大切に保存してほしい。早く整備をしてほしい。 	<p>51～53 頁</p> <p>3) 保存修復計画</p> <p>4) 利便施設の整備</p>
活用について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月20日の「当日案内」が分りにくかった。見学日が明記していない。集合場所の図がわかりにくい。現地集合だが案内文書に地図がない為よく分らなかった。電話したがつながらなかった。 ・ 催しは新聞紙上でも広報すれば関心の無い人も参加して見ようとなると思う。 	<p>57～58 頁</p> <p>3) 利活用計画</p>

	意見	基本計画への反映
活用について	<ul style="list-style-type: none"> これからも是非開催してほしい。1年に1度はやってほしい。 美歎水源地のことなど少学生・中学生児童生徒を遠足に連れて来て社会科見学を実習してほしい。春の桜の咲く時期が素晴らしい。 現在の水道・下水道施設、水道のしくみの見学会も希望。 	57～58頁 3) 利活用計画
	<ul style="list-style-type: none"> 万葉歴史館・池田家墓所・殿ダム等の関連を持って一つの名所にしてはどうか。 鳥取県の観光コースに入れてもらってほしい。 	57～58頁 3) 利活用計画
見学会に対して	<ul style="list-style-type: none"> このような施設があるという事は知っていたが、自分で来ることはなかなか無く、よい機会を頂いた。 普段入れない所に入れて良かった、得した感じがした。 初めて見るものなので全て目・耳に新しく勉強になった。 説明が丁寧で詳しく、わかりやすくよく理解できた。勉強になった。 大体の事は知っていたが今回の丁寧な説明で思い出したりしてよくわかった。 地元の間人も知らなかった事がわかった。 身近にあった物の由来がよく分った。 当時の水道施設、歴史的な事実の説明がわかりやすかった。 参加者は老齢の人が多く、若い者より熱心な見学振りだった。 説明担当者ともよく調査研究・勉強しており、専門の方々に詳細な説明を伺えた。 説明に具体性がなく物足りない。 もっと経緯を調べ、レジュメとして配布して欲しい。 天候に恵まれ風も吹いて快適であった。ゆっくり見学できた。 見学会は暑い時期を外した時期が良いのではないかと。暑い中又歩くのは大変である。説明される方も大変。 	57～58頁 3) 利活用計画 4) 調査研究
	<ul style="list-style-type: none"> もう少し時代背景に触れると良い。 当時は給水世帯、費用はどれくらいかかったか等の資料があれば更に充実した。 水道の歴史だけでなく、鳥取藩と横浜市との関係、沖家画家との関係が説明され良かった。 	21～23頁 4) 水道史と美歎水源地の歴史的意義 29～30頁 1) 美歎水源地の創立沿革
	<ul style="list-style-type: none"> 設備の全体の流れが良く分らなかった。地中の配管図などで全体のシステムを知りたかった。 順路の表示がほしかった。 もう少し上流も見学したかった。 階段の部分が降りられなかったのが残念だった。 帰り際の説明が不十分、アンケート用紙を車に置いていて無駄足の感がした。 	53頁 4) 利便施設の整備 49～50頁 2) 導線計画

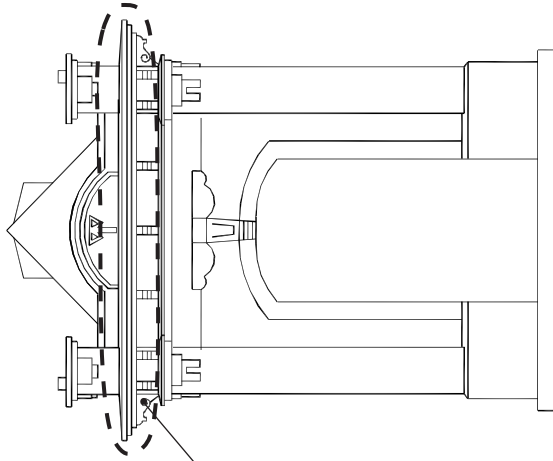
4.重要文化財建造物現況図

現存の建造物の図面を元に、図面を作成し、調査時点での状態を書き込んだ。

1号濾過池附属調整井上家

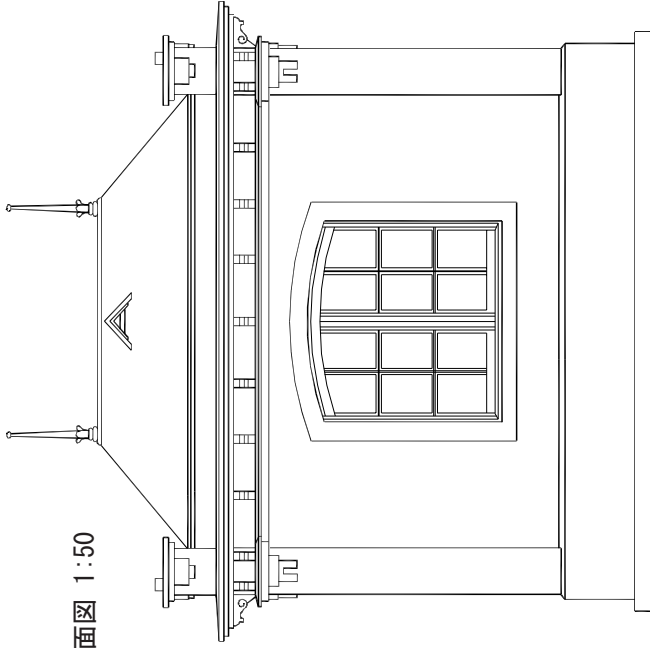
調査日：平成19年10月23日
作成日：平成19年11月～
20年3月

正面図 1:50

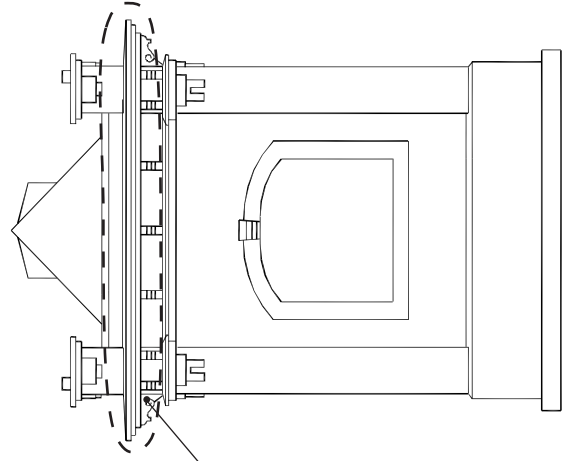


軒：大破(モルタル剥落・鉄筋露出)

左側面図 1:50

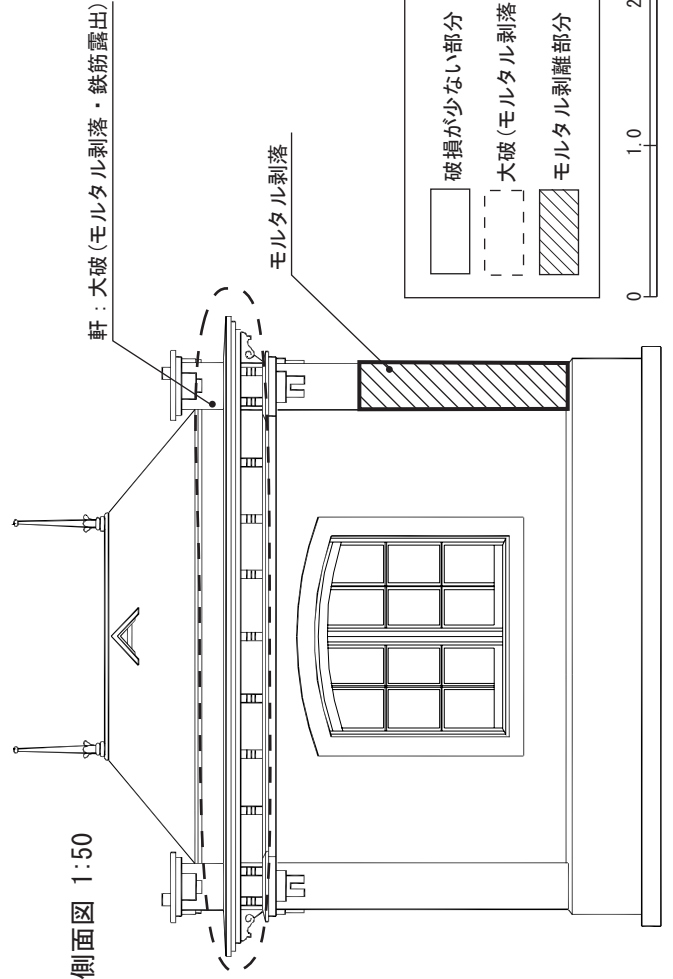


背面図 1:50



軒：大破(モルタル剥落・鉄筋露出)

右側面図 1:50



破損が少ない部分

大破(モルタル剥落・鉄筋露出)部分

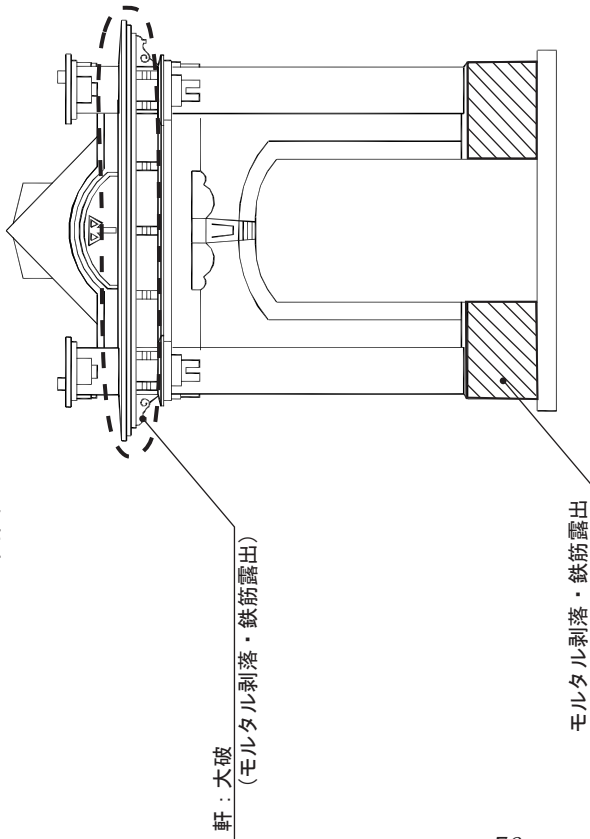
モルタル剥離部分

0 1.0 2.0 3.0m

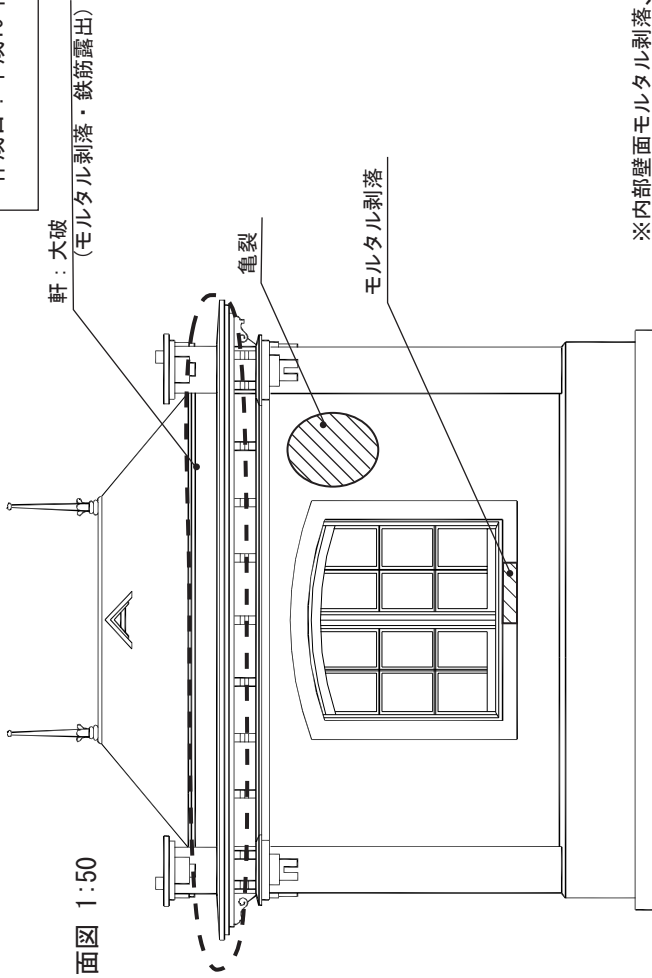
2号濾過池附属調整井上家

調査日：平成19年10月23日
作成日：平成19年11月～
20年3月

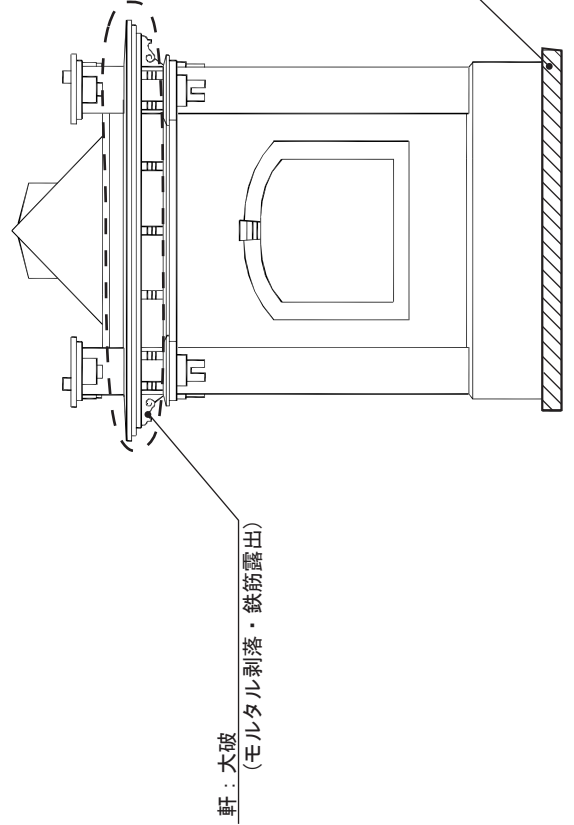
正面図 1:50



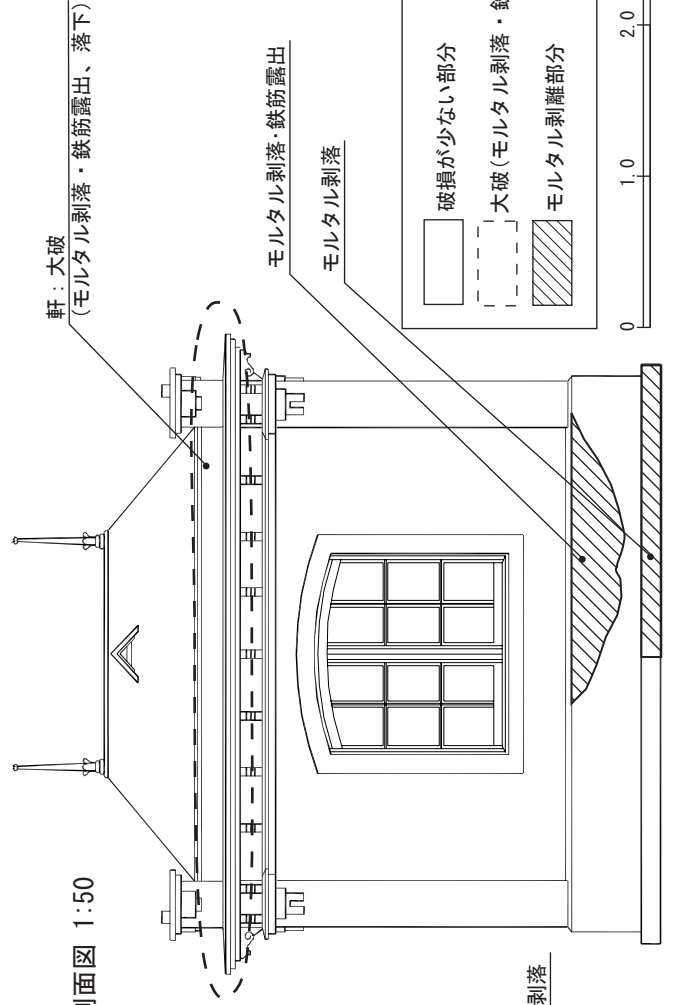
左側面図 1:50



背面図 1:50



右側面図 1:50

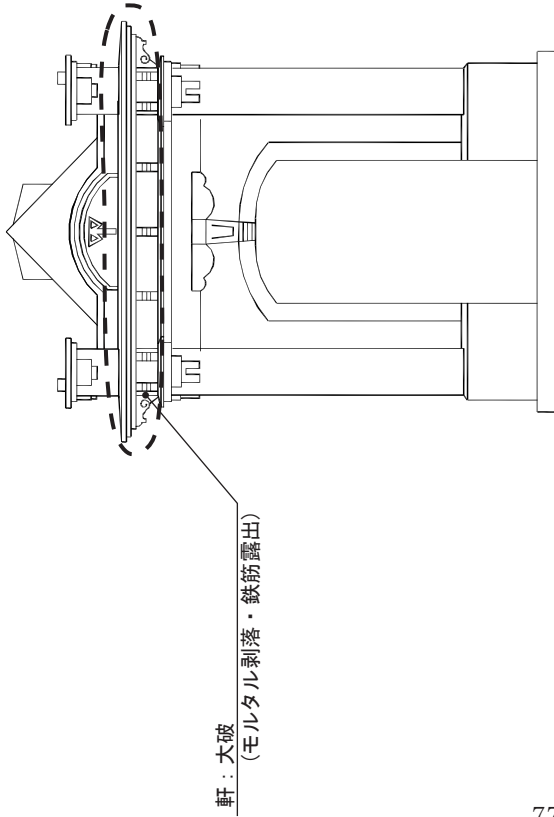


※内部壁面モルタル剥落、鉄筋露出

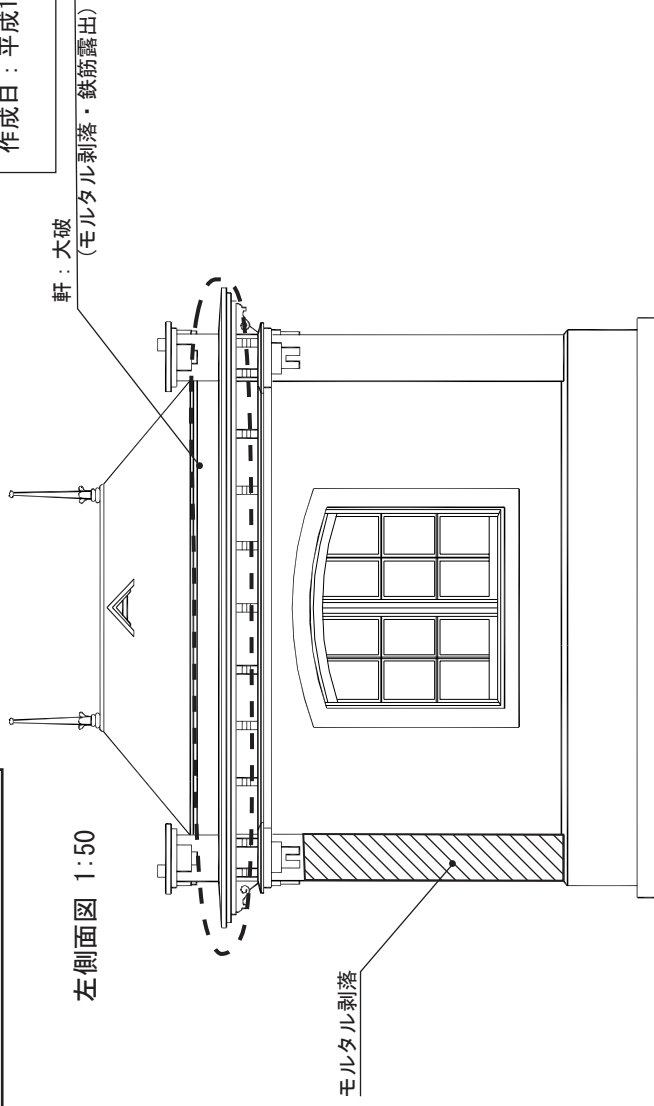
3号濾過池附属調整井上家

調査日：平成19年10月23日
作成日：平成19年11月～
20年3月

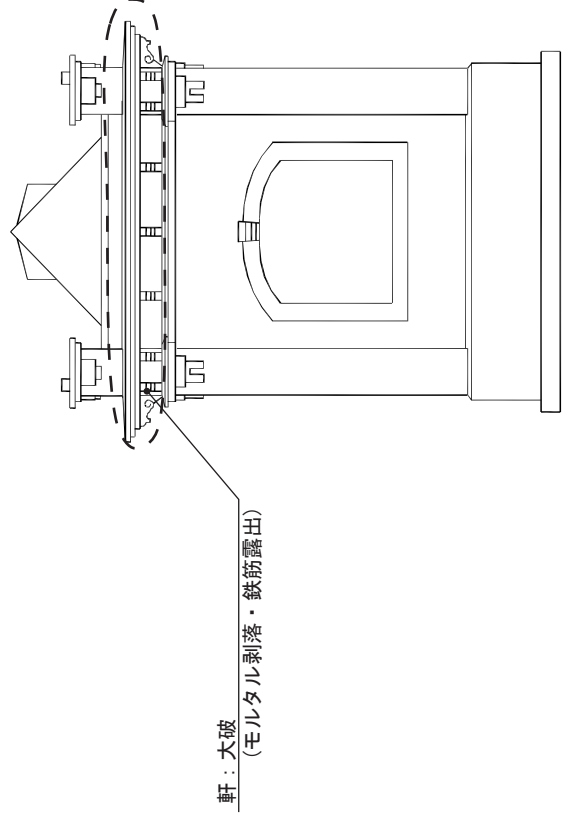
正面図 1:50



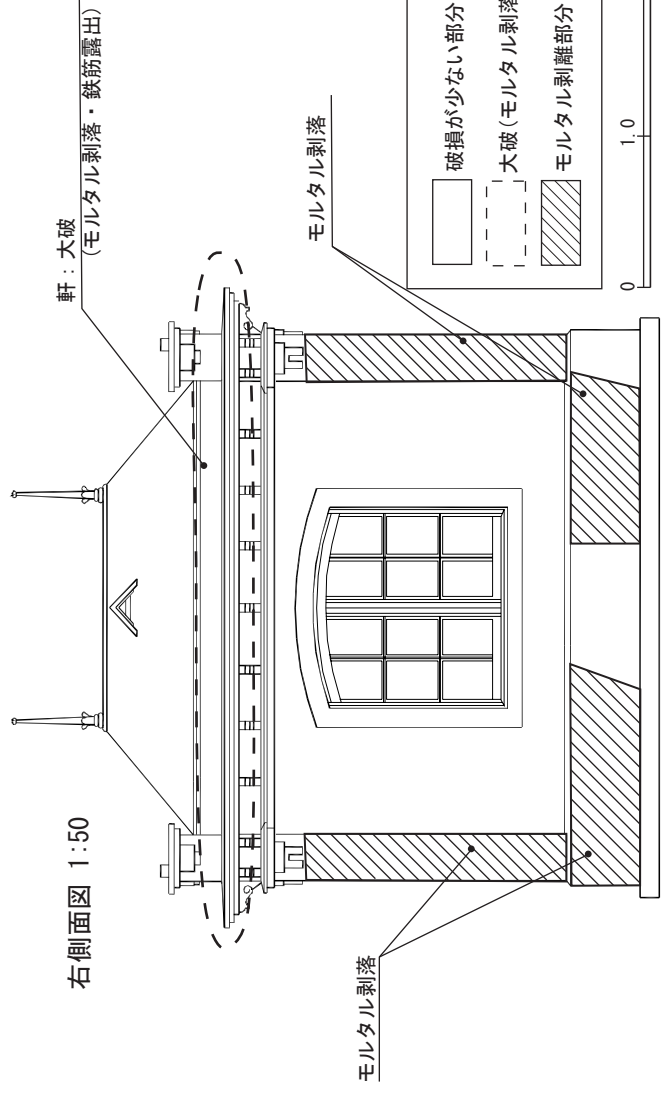
左側面図 1:50



背面図 1:50



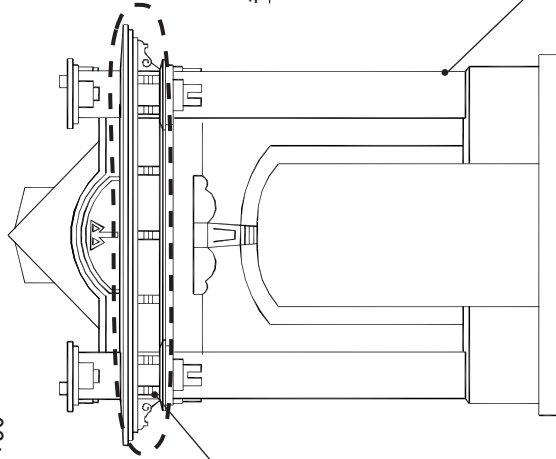
右側面図 1:50



4号濾過池附属調整井上家

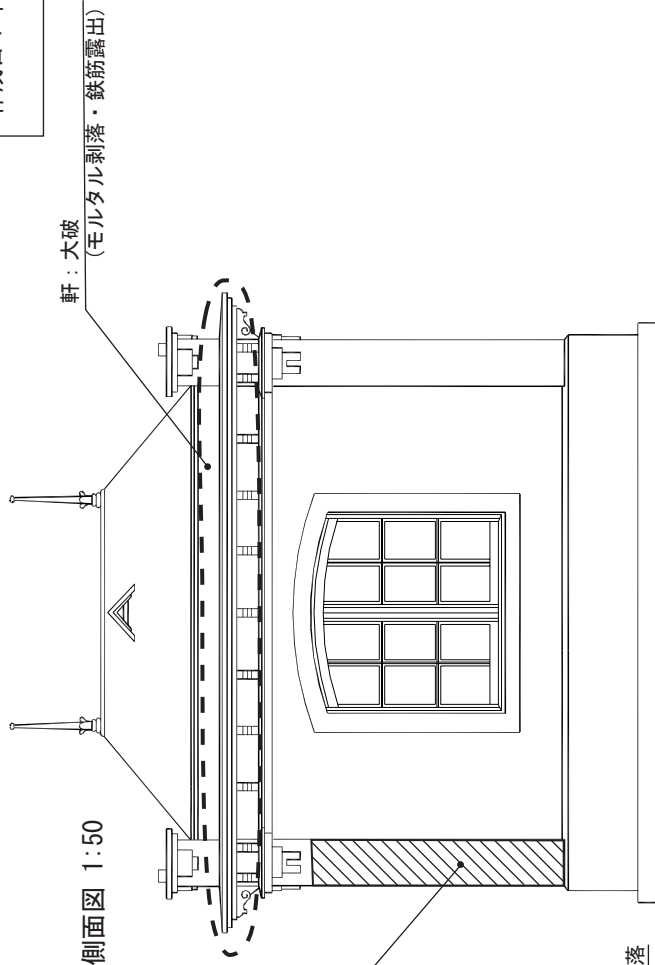
調査日：平成19年10月23日
 作成日：平成19年11月～
 20年3月

正面図 1:50



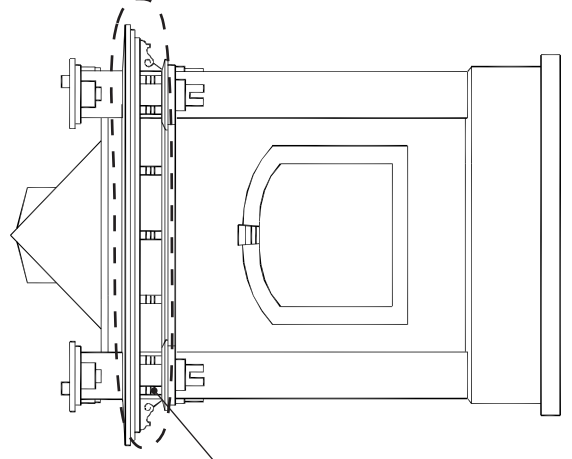
軒：大破
 (モルタル剥落・鉄筋露出)

左側面図 1:50



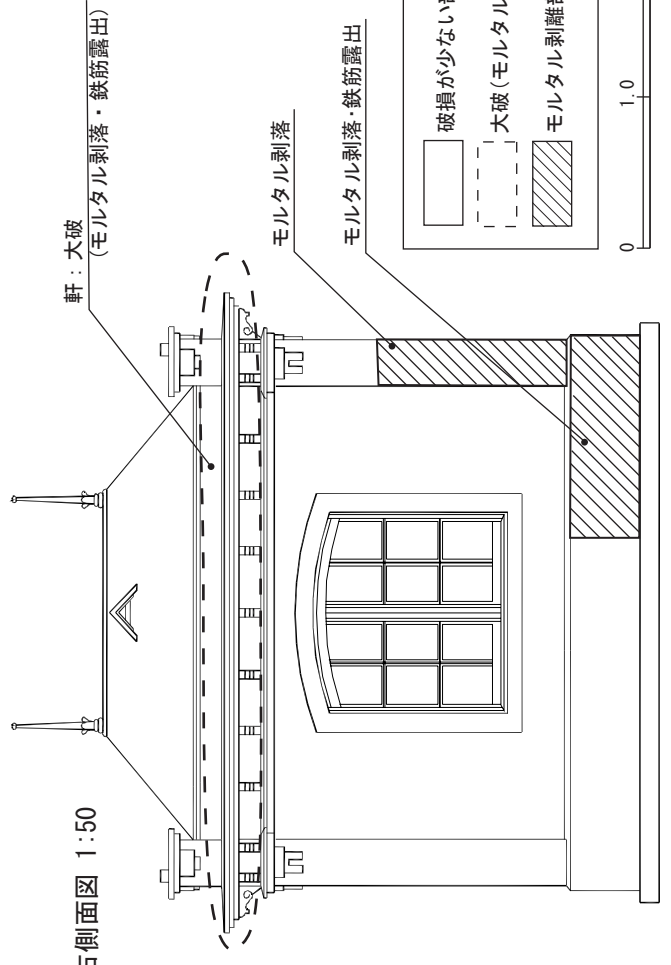
軒：大破
 (モルタル剥落・鉄筋露出)

背面図 1:50



軒：大破
 (モルタル剥落・鉄筋露出)

右側面図 1:50



軒：大破
 (モルタル剥落・鉄筋露出)

モルタル剥落・鉄筋露出

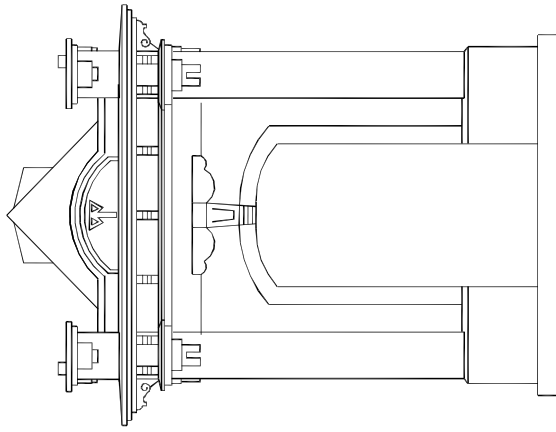
	破損が少ない部分
	大破(モルタル剥落・鉄筋露出)部分
	モルタル剥離部分



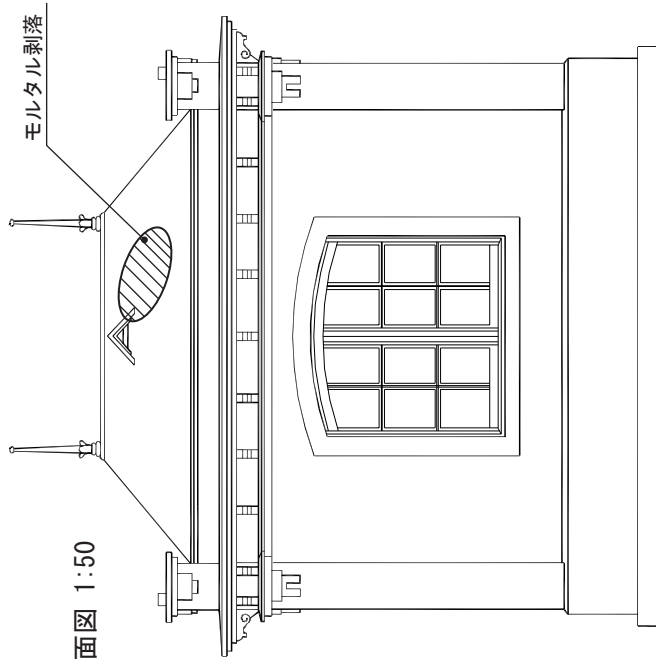
5号濾過池附属調整井上家

調査日：平成19年10月23日
 作成日：平成19年11月～
 20年3月

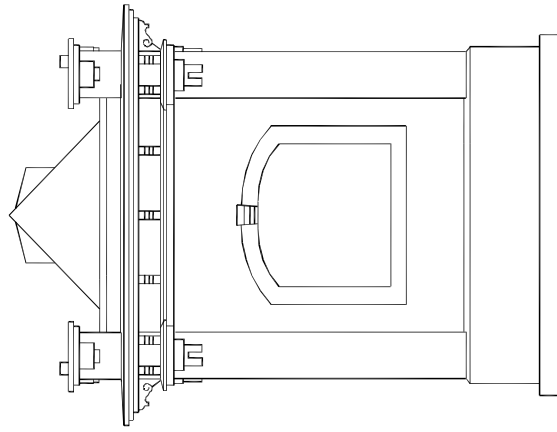
正面図 1:50



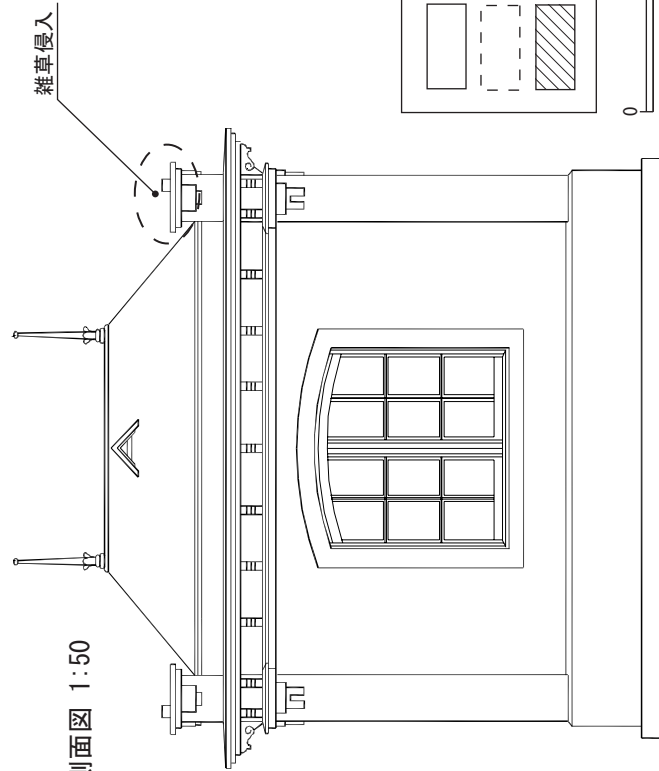
左側面図 1:50



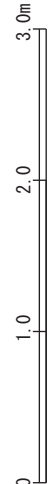
背面図 1:50



右側面図 1:50



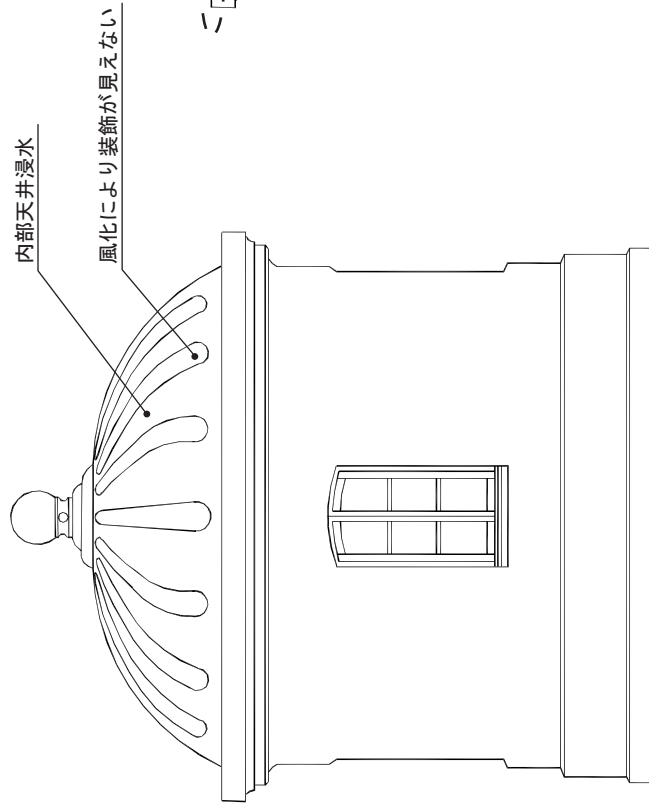
	破損が少ない部分
	大破(モルタル剥落・鉄筋露出)部分
	モルタル剥離部分



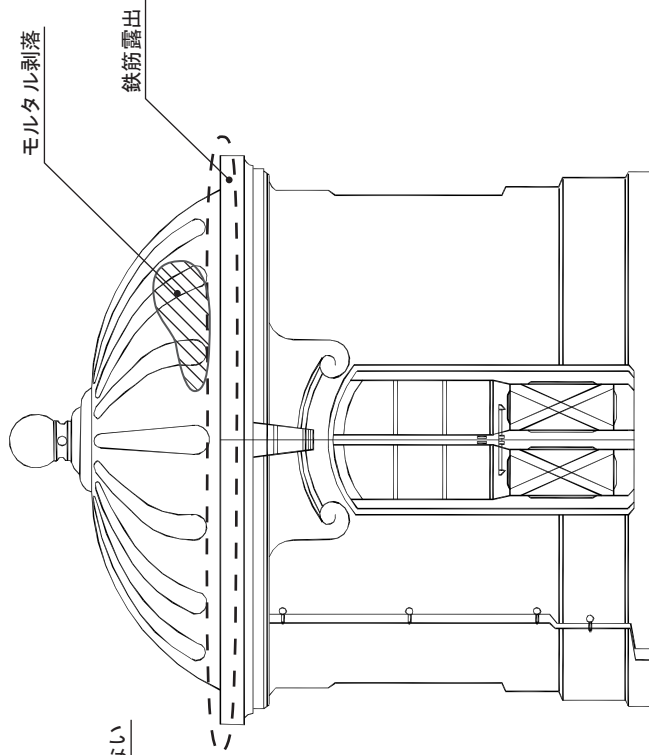
濾過池附属接合井上家

調査日：平成19年10月23日
 作成日：平成19年11月～
 20年3月

側面図 1:50



正面図 1:50



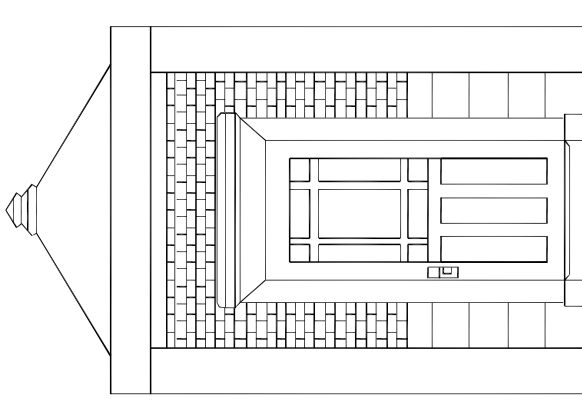
	破損が少ない部分
	大破(モルタル剥落・鉄筋露出)部分
	モルタル剥離部分



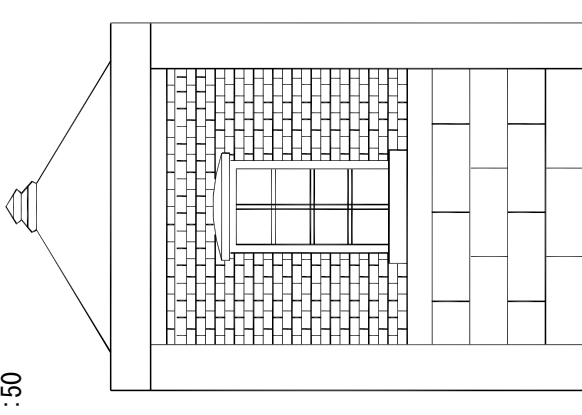
量水所

調査日：平成19年10月23日
作成日：平成19年11月～
20年3月

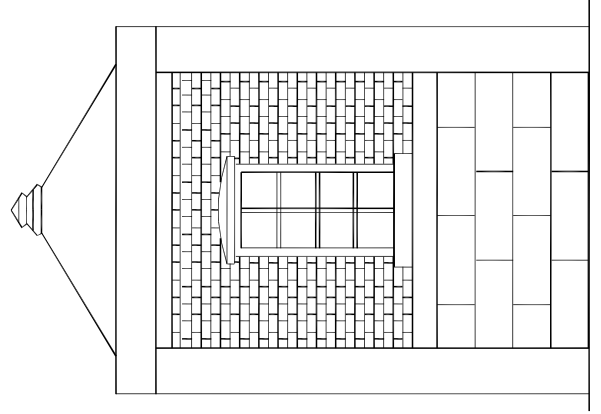
正面図 1:50



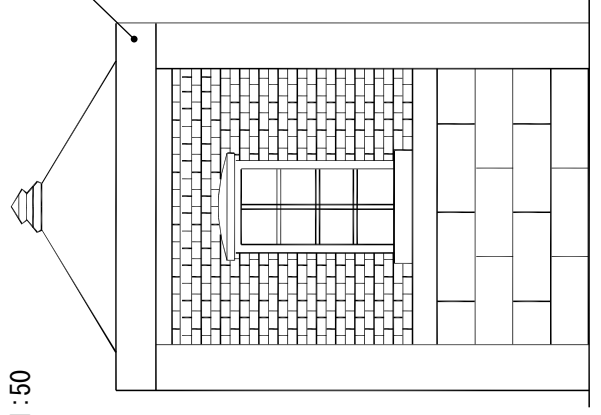
左側面図 1:50



背面図 1:50



右側面図 1:50



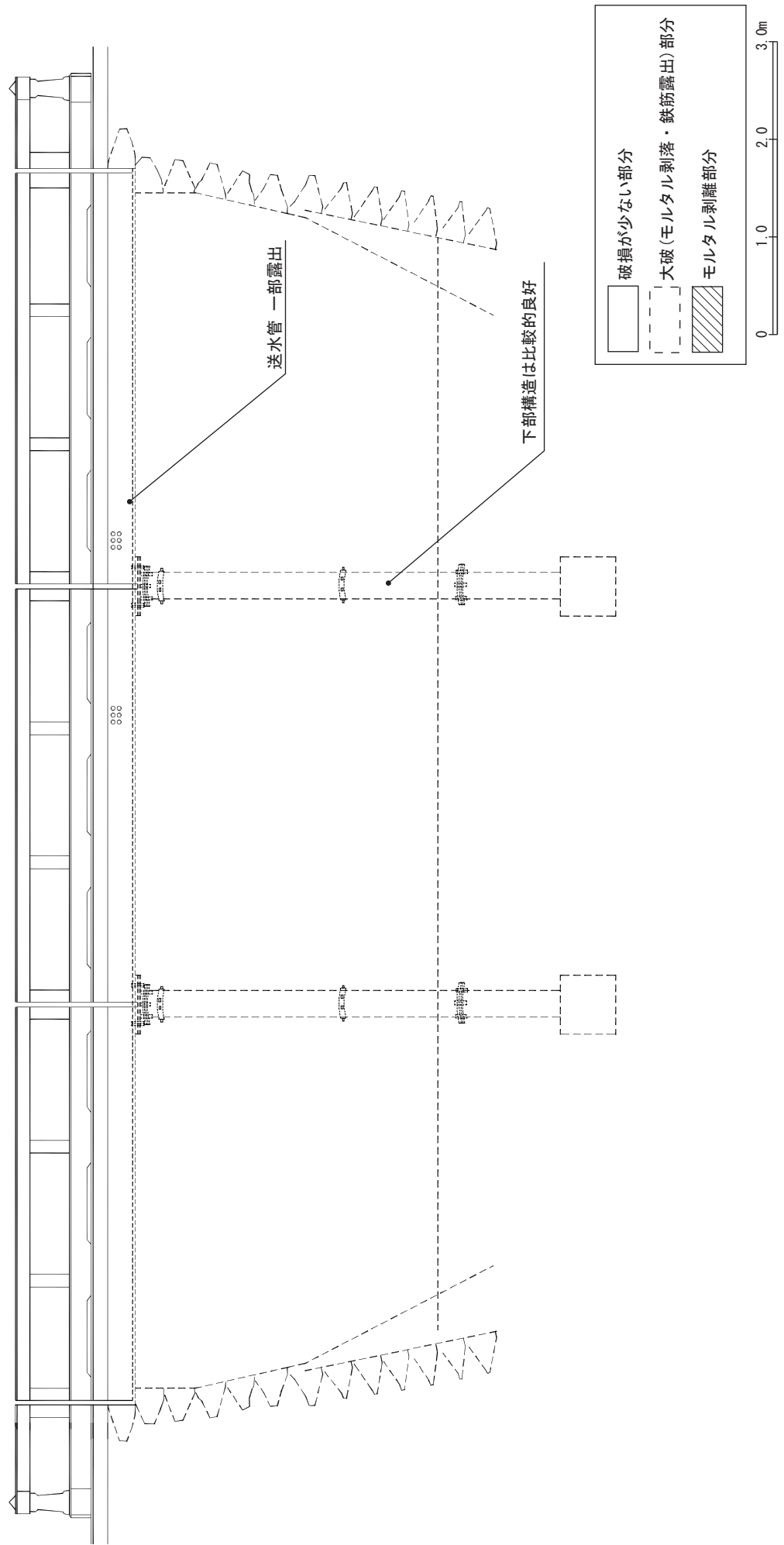
	破損が少ない部分
	大破(モルタル剥落・鉄筋露出)部分
	モルタル剥離部分



人道橋 (事務所前)

調査日：平成19年10月23日
作成日：平成19年11月～
20年3月

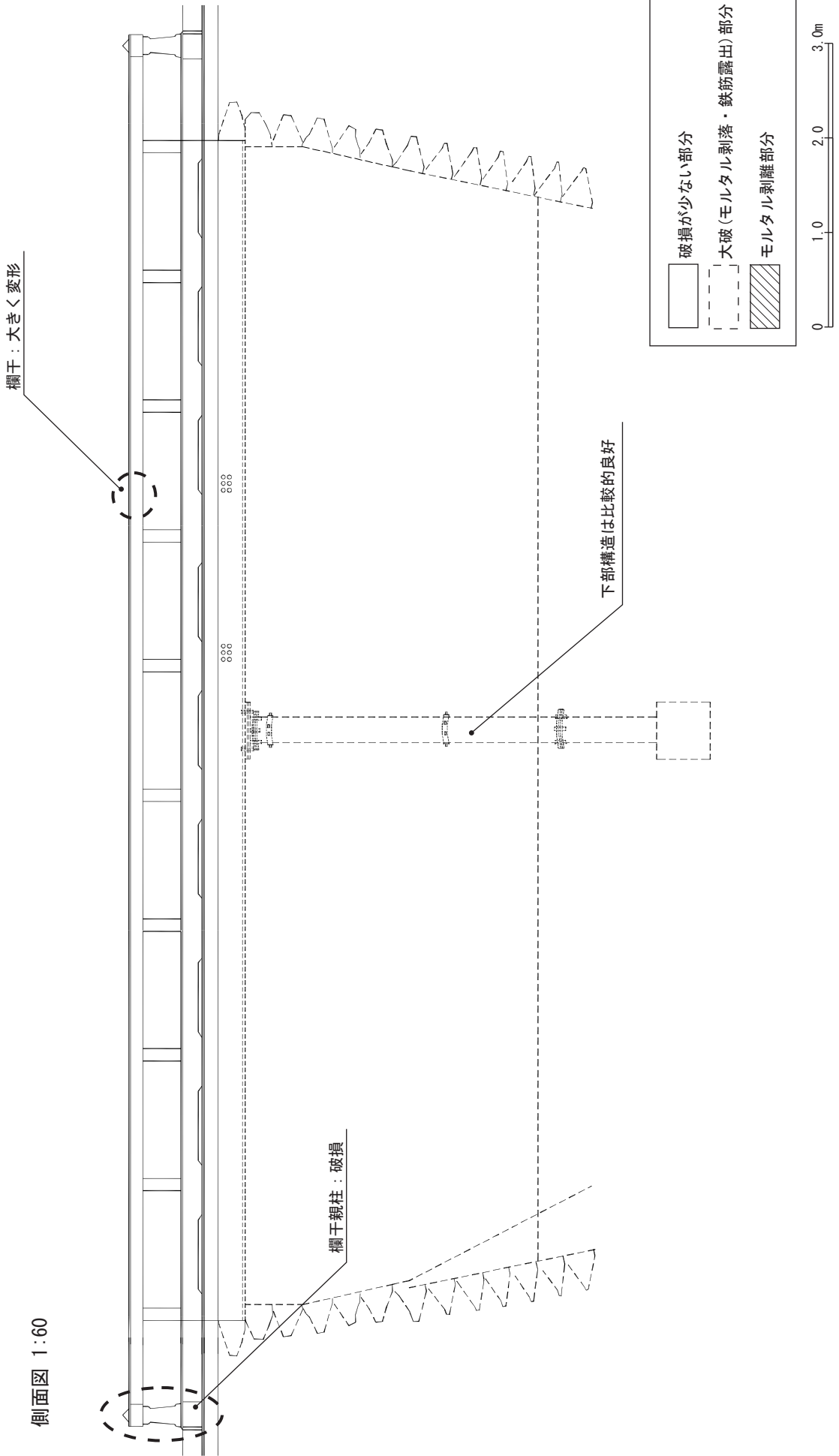
側面図 1:60



人道橋 (岩ヶ平人道橋)

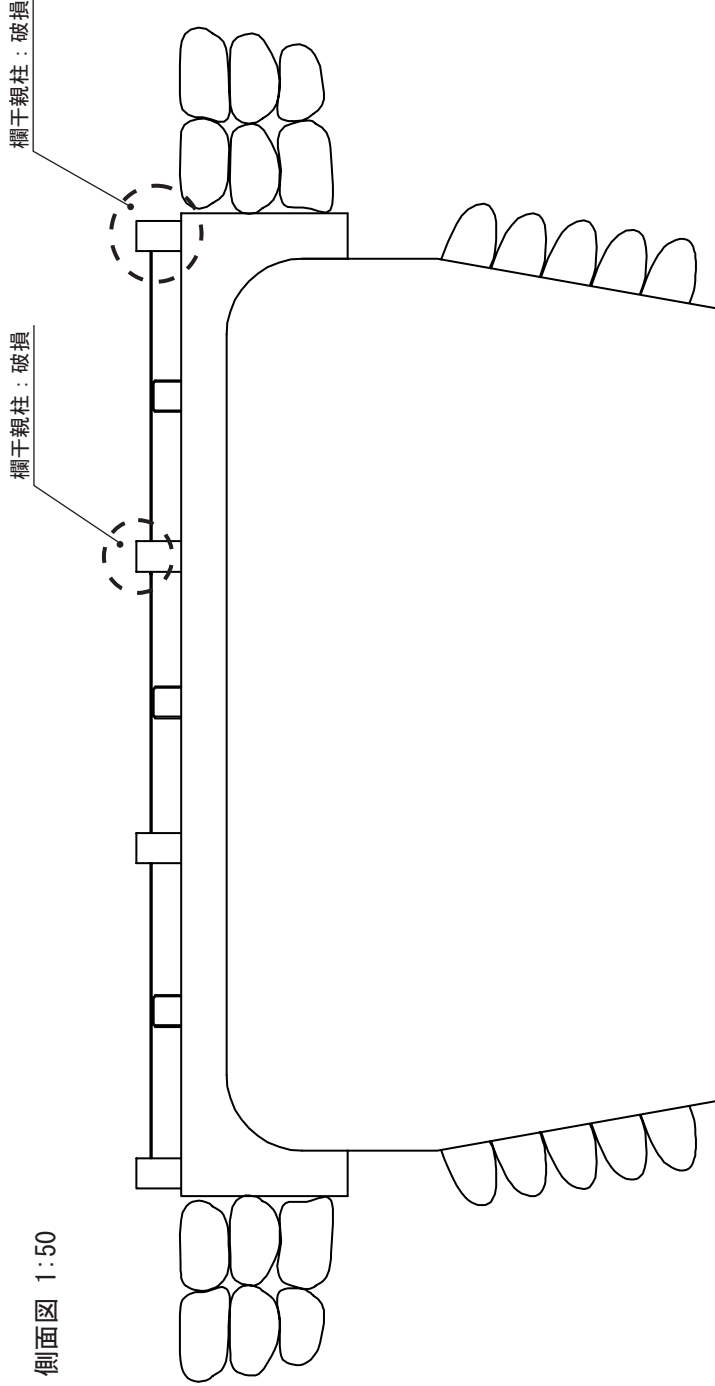
調査日：平成19年10月23日
作成日：平成19年11月～
20年3月

側面図 1:60



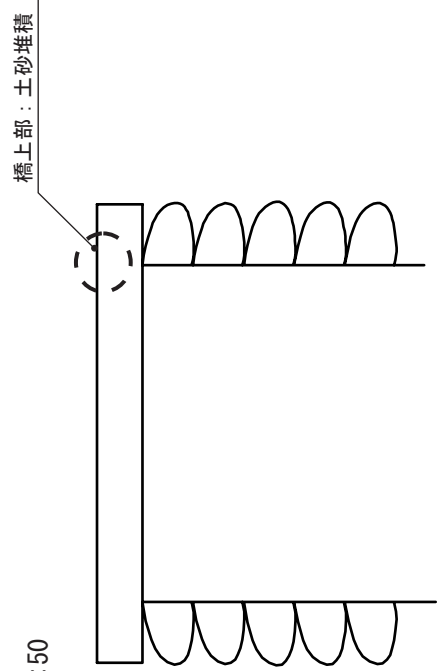
勝田ヶ平人道橋

調査日：平成19年10月23日
 作成日：平成19年11月～
 20年3月

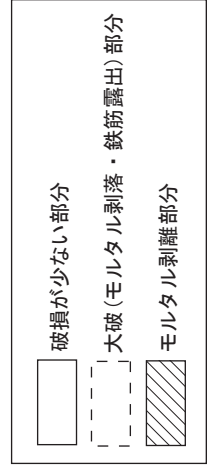


側面図 1:50

通り谷人道橋



側面図 1:50



<参考文献>

- 今井宏『古代のローマ水道 フロンティヌスの『水道書』とその世界』原書房 1987年
- 高寄昇三『近代日本公営水道成立史』日本経済評論社 2003年
- 堀越正雄『水道の文化史 江戸の水道・東京の水道』鹿島出版会 1981年
- 日本水道協会・編『日本水道史 総論編』日本水道協会 1967年
- 日本水道協会・編『日本水道史 各論編3 中国, 四国, 九州』日本水道協会 1967年
- 日本水道協会・編『日本水道史 付図編』日本水道協会 1967年
- 台湾総督府研究所『台湾総督府研究報告 第1回』台湾総督府研究所 1912年
- M・メリマン(大沼文哉訳)『衛生工学』鍾美堂 1902年
- 内務省衛生局『上下水道二関スル調査書』内務省衛生局 1905年
- 内務省衛生局『上下水道二関スル調査書』内務省衛生局 1909年
- 鳥取市水道局『鳥取のすいどう』
- 鳥取県教育委員会『鳥取県の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告書』1998年
- 鳥取市『鳥取市誌』1972年
- 鳥取市『鳥取市誌2』1983年
- 鳥取市『鳥取市誌3』1993年
- 鳥取市『鳥取市誌4』2003年
- 鳥取市水道局『鳥取市水道六十年史』1975年
- 鳥取市水道局『鳥取市水道九十年史』2005年
- 『近代水道百選』日本水道新聞社 1986年
- 神戸市水道局『布引水源地水道施設記録誌～国重要文化財指定記念～』2006年
- 文化庁歴史的建造物調査研究会『建物の見方・しらべ方 近代土木遺産の保存と活用』ぎょうせい 1998年
- 日本産業遺産研究会・文化庁歴史的建造物調査研究会『建物の見方・しらべ方 近代産業遺産』ぎょうせい 1998年
- 清水 慶一, 清水 襄『近代化遺産探訪 知られざる明治・大正・昭和』エクスナレッジ 2007
- 北河 大次郎・後藤 治(編さん)小野 吉彦(写真)『図説 日本の近代化遺産』河出書房新社 2007
- 砂田 光紀, 国土交通省九州運輸局, 九州産業・生活遺産調査委員会『九州遺産 近現代遺産編101』弦書房 2005
- 加藤康子『産業遺産』日本経済新聞社 1999
- 須田 寛, 安村 克己, 徳田 耕一『新・産業観光論 近代化産業遺産の活用と「交流の世紀」への歩み』すばる舎 2002
- 清水 慶一, 増田 彰久『ニッポン近代化遺産の旅』朝日新聞社 2002